

※令和2年5月8日テックチーム会合資料

# 接触確認アプリの導入に係る 各国の動向等について

令和2年5月8日

新型コロナウイルス感染症対策テックチーム事務局

# 1.各国における接触確認アプリの比較（プライバシーと公衆衛生のバランス）

- プライバシーに対する世論と、公衆衛生学上の要請をどのようにバランスさせるか、各国それぞれの実情に応じて対応。

大  
↑  
プライバシー影響度  
↓  
小

| 国                   | 導入時期<br>(D L数)               | 接触把握方法<br>(位置情報利用／Bluetooth利用)    | 電話番号等の<br>個人情報取得                            | 陽性者データ管理<br>(中央サーバー型／<br>個別端末分散型)   |
|---------------------|------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------|
| 中国                  | 2月<br>(不明)                   | 自己申告<br>(位置情報、決済情報等は当局が<br>把握可能)  | 電話番号等を予めプラットフォ<br>ーマーのアプリ導入の際に取得            | 中央サーバー型                             |
| インド                 | 4月11日<br>(9000万以上:<br>人口比7%) | 位置情報<br>+<br>Bluetooth            | 位置情報・電話番号取得<br>(氏名、年齢、性別、職業、渡<br>航歴、喫煙歴も取得) | 中央サーバー型                             |
| イスラエル               | 3月22日<br>(150万以上:<br>人口比17%) | 位置情報<br>(Bluetooth併用型の開発を進<br>める) | 位置情報                                        | 分散型                                 |
| オーストラリア             | 4月26日<br>(500万以上:<br>人口比20%) | Bluetooth                         | 電話番号取得<br>(氏名、郵便番号、年代も取<br>得)               | 中央サーバー型                             |
| シンガポール              | 3月20日<br>(140万以上:<br>人口比25%) | Bluetooth                         | 電話番号取得                                      | 中央サーバー型                             |
| 英国、<br>フランス         | 5月中                          | Bluetooth                         | なし                                          | 中央サーバー型を<br>検討中                     |
| ドイツ、スイス、<br>エストニア 等 | 5月中                          | Bluetooth                         | なし                                          | 分散型を検討中<br>(Google・AppleのAPI活<br>用) |

## 2.各国における接触確認アプリの利用目的

- 各国のアプリは使用目的により大きく3つに分けられると考えられる。

### ① 接触度に応じた施設や地域への立ち入り制限・感染者隔離のためのツール (感染者等、個人動向が把握できる形での個人情報取得)

- 中国（立入制限）
- 韓国、台湾（感染者隔離）

### ② 公衆衛生当局による濃厚接触者の把握のための補完ツール (プライバシーに配慮しつつも必要な個人情報取得)

- インド、アイスランド、ガーナ 等（位置情報型）
- シンガポール、オーストラリア、英国、フランス（Bluetooth型）

### ③ 通知を受けた接触者の行動変容による感染拡大防止の、個人向けのツール (プライバシーに配慮し、当局は濃厚接触者を特定しない)

- ドイツ、スイス、エストニア（完全匿名型）
- イスラエル（位置情報のみ把握）

# Apple・Googleが開発中の仕様について

○Apple・Googleが開発中のAPI機能の概要は以下の通り。

- iPhone-AndroidのOS間での相互運用性を確保
- 消費電力を節約したBluetoothを使用
- 端末において、アプリのユーザーインターフェースを表示しなくても常時稼働することが可能
- Bluetoothで交換する識別子は、個別の端末内で分散型で管理し、陽性者との接触確認の判断も、個別の端末内で行う
- 接触情報以外の個人情報取得しない



## 両社が開発中の仕様を追跡確認アプリに活用する際のメリット・デメリット

### (メリット)

- ① 端末上で他のアプリを使用中でも他者との接触データを常に取り得ることができる  
(現状では、他のアプリ使用中はBluetoothが機能しない)
- ② プライバシーに配慮した分散型・匿名型のシステムとなる
- ③ 消費電力が少なく済み、携帯電話のバッテリーが長持ちする
- ④ アンドロイド・iOSで共通の仕様となるため、アプリ開発の負担軽減が可能

### (デメリット)

- ① 公衆衛生当局において、接触者情報等の取得範囲について、APIの制約に従うことになる
- ② APIの仕様が確定されるまでアプリのリリースの見通しが立てづらい